



Emergency Vehicles Set

車輪が自由に回転する救助車両を使った自由な遊びです。ごっこ遊び、原因と結果の関係への理解、分類する力、私たちに助けてくれる人々に関する言葉の習得を支えます。

内容

3台の乗り物

対象市場

家庭・教育の両方

■ セットの内容



Baby Fire Engine

9 × 8 × 6 cm



Baby Ambulance

9 × 7 × 6 cm



Baby Police Car

9 × 6 × 8 cm

■ 子どもが学ぶこと



手先の器用さ

つかむ、押す、方向を変える、積む。運転手の頭をひねる動きが、指先でつまむ力を育みます。



原因と結果

押せば必ず動く。予測を学ぶ最初の、いちばんわかりやすい経験です。



言葉

乗り物、お仕事、サイレン、速い・遅い。ワークシートなしで、豊かな語彙に触れます。



はじめての数

車庫に出入りする乗り物を数えながら、多い・少ない、いっぱい・からっぽを体験します。



社会性

順番を待つ、役割を話し合う、みんなで助ける。



想像力

台本はありません。誰が助けを必要としているか、どう終わるかは子どもが決めます。

■ テーマ

私たちに助けてくれる人

安全に過ごす

乗り物

私たちの地域

旅

緊急事態

色



■ ひとつのセットで5年間遊べる



■ セットの4つの使い方

ひとりで発見する：6～18か月
乗り物1台、何も無い床、声をかけ続ける大人。ほかには何も要りません。

大人と2人で遊ぶ：12か月以上
前後に押し合います。名前を言い、音を出し、反応を待ちます。

少人数グループ：2～5歳
1人1台の乗り物と、みんなで使う道路または坂。順番を待つことが遊びの中に組み込まれています。

常設の遊びコーナー
積み木、道路マット、砂のトレイと一緒に、1週間置いておきます。

■ 保育の現場で

小さな部品なし、電池なし、交換するものなし

拭いてきれいにできます。砂遊びや水遊びにも使えます

浅いトレイ1つに平らに収まりません。片づけは子ども自身でできます

3台セットで、または3人の子どもで分けて遊べます

■ 観察のポイント

☐ 手を離れたあとも、乗り物を目で追っていますか？

☐ 両手を一緒に使っていますか？（片手で持ち、もう片手で積む）

☐ 乗り物とその仕事を結びつけられますか？

☐ 数えた数と、止めた乗り物の台数は合っていますか？

☐ 乗り物に声や仕事、困りごとを与えていますか？

☐ 促されなくても、自分から順番を求めますか？

■ 学びの領域

[身体の発達](#)
[コミュニケーションと言葉](#)
[人間関係と心の発達](#)
[身近な世界の理解](#)
[数学](#)
[表現活動](#)

■ セットを広げる

同じようにスムーズに走るシリーズです。加えれば、乗り物とレスキューのコレクションがそろいます。年上の子には、First Friendsの消防車やクリニックとの組み合わせもおおすすめです。

Baby Aeroplane

Baby Helicopter

Baby Jeep

Baby Racer



1 押す、見る、取りに行く

6~18か月
子ども1人+大人

用意するもの

乗り物1台。何も無い床のスペース。

進め方

1. 子どもと1メートルほど離れて向かい合って座り、間の床を空けておきます。
2. 乗り物を1台、ゆっくり子どもの方へ押し出します。「来るよ」と声をかけます。
3. 目で追う、手を伸ばす、取りに行くなど、どんな動きもほめましょう。
4. 子どもが押し返すよう促します。興味が続くかぎり繰り返します。

学びのねらい

原因と結果 目で追う力 全身運動 言葉

やさしく — 乗り物が子どもの手の届く範囲に収まるよう、もっと近くに座ります。

難しく — 子どものそばを通り過ぎるように転がし、はいはいしたり歩いたりして取りに行く動きを引き出します。

注目ポイント

手から離れたあとも、視線は乗り物についていくでしょうか。見続ける力こそ、ここで育てたい力です。

2 誰が助けに来る？

2~4歳
子ども2~4人

用意するもの

乗り物3台すべて。簡単な場面の小道具を3つ（小さな火事、けがをしたティベア、落とし物のかばんなど）。

進め方

1. 乗り物を真ん中に置き、みんなで1台ずつ名前を言います。
2. 場面を見せて「誰を呼ぼうか」と尋ねます。考える時間をとり、指さしても受け止めましょう。
3. 乗り物を選んだ子が、その乗り物を現場まで走らせ、次に何が起こるかを話します。
4. ほかの乗り物も助けに来られるか尋ねてみましょう。たいていの緊急事態は、1台だけでは解決しません。

学びのねらい

マッチング 語彙 順番を待つ 世界を知る

やさしく — 乗り物2台と、とてもわかりやすい場面を2つ用意します。

難しく — なぜそう思うのか、どんな順番で到着するべきかを尋ねます。

注目ポイント

いつも同じ乗り物を選ぶ子は、判断ではなく好みを示しているのかもしれない。その理由を言葉にするよう促してみましょう。

3 車庫をいっぱいにしよう

2~4歳
子ども1~3人

用意するもの

レスキュー車3台。車庫に見立てた靴箱またはトレイ。あれば数字カード。

進め方

1. 3台の乗り物を箱の駅横に並べます。
2. 1台ずつ触りながら一緒に数えます。大切なのは唱えることではなく、ものと数を1対1で結びつけることです。
3. 1台ずつ車庫に入れながら、もう一度数えます。「外には何台残っているかな」と尋ねます。
4. 1台ずつ車庫から出しながら、いっぱい、からっぽ、多い、少ないについて話します。

学びのねらい

数える 1対1対応 手先の器用さ 位置を表す言葉

やさしく — 乗り物は2台だけにして、大人がそばで声に出して数えます。

難しく — 数字カードをめくり、その数ぴったりの台数を駐車します。または色の順番に出発させます。

注目ポイント

最後に言った数があるまま全部の数として使われているか、耳を傾けましょう。これが基数の原理で、大きな節目です。



4 ランプレース

2~5歳
子ども2~4人

用意するもの

乗り物2~3台。積み木に立てかけた板またはトレー。

進め方

1. ゆるやかな坂をつくります。押さずに、坂の上から乗り物を離します。
2. 手を離す前に、どれが一番速くまで行くか尋ねます。
3. 止まった場所に積み木で印をつけ、比べます。
4. 坂を高くしてもう一度走らせ、何が変わったか、なぜかを尋ねます。

学びのねらい

はじめての科学

予測

比べる

測る

やさしく — 乗り物1台と低い坂1つ。遠いか近いかだけに注目します。
難しく — 結果をキューブで記録し、そこからわかるパターンを子どもに説明してもらいます。

注目ポイント

学びは競走ではなく予測にあります。予想して、試して、見直す。それで十分です。

5 カラーガレージ

18か月~3歳
子ども1~4人

用意するもの

乗り物3台すべて。乗り物の色に合わせた色つきのシート、フープ、トレーを3つ。

進め方

1. 色つきシートを駐車スペースとして並べます。
2. 大人が1台止めてみせ、止めながら色の名前を言います。
3. 子どもに1台ずつ止めてもらいます。時間をかけ、すぐには直さないようにします。
4. 色合わせが確実になったら、名前だけで頼みます。「赤いのを止めてね」。

学びのねらい

色

マッチング

分類

聞く力

やさしく — スペースは2つ、色ははっきり違う2色にします。

難しく — ルールを1つ足します。色で止めたあと、大きさの順に並べます。

注目ポイント

色を合わせられるようになるのは、色の名前を言えるようになるよりずっと前です。正しく止められるのに「赤」と言えない子ども、ちゃんとできています。

6 緊急事態！ お話をつくろう

3~5歳
子ども3~6人

用意するもの

乗り物3台すべて。積み木、道路マット、またはミニチュアの世界をつくる遊び用トレー。

進め方

1. みんなで街をつくり、消防署と病院をどこに置くか話し合います。
2. グループに問題を出します。「屋根から煙が出ているよ」。
3. 1人1台の乗り物と1つの役割を受け持ちます。到着する順番を決めます。
4. 最後まで演じたら、「はじめに、次に、それから、最後に」の言葉を使って語り直します。

学びのねらい

順序立て

物語

協力

思いやり

やさしく — 乗り物2台の2ステップの物語にします。語り直しは、まず大人がお手本を見せます。

難しく — 子どもが緊急事態を考え、どの乗り物はいらないか、その理由も決めます。

注目ポイント

誰がリードし、誰がついていくかを記録しましょう。1週間のうちに役割を交代して、おとなしい子にも語り手の番が回るようにします。

